

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、 家族や地域の人々と協働し、よりよい家庭生活を営もうとする生徒の育成 — 問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して —

東京都中学校技術・家庭科研究会
調布市立調布中学校 副校長 北島 陽子

1 主題設定の理由

現在、子供を取り巻く環境の中には、児童虐待や育児放棄、少子化などの問題がある。これらの社会問題は家庭生活に起因している。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、地域との協働によって築かれてきた行事や様々な活動が中止になることで、家庭と地域のつながりが希薄になっている。

高齢化の進む地域では、中学生の力が必要とされている。これからの社会の担い手である中学生が、家庭生活に関する諸問題を自分のこととしてとらえていくことが重要である。

そこで、本研究では、持続可能な社会の構築に向けて、家族や地域の人々と協力・協働し、家族・家庭生活や地域との関わりにおける問題を見極め、課題を設定し、人とのつながりを考えた解決策を構想して、よりよい家庭生活を営もうとする生徒の育成を目指し、研究主題を設定した。

2 生徒の実態

令和2年7月、東京都町田市、稲城市、小平市の中学1年生（471名）を対象に「家族・家庭生活や地域との関わり」に関する意識調査を実施した。家族・家庭生活への理解について尋ねたところ、家庭生活について「知りたい」と答えた生徒は19%にとどまった（表1）。

地域の人々との関わりに関する質問では、地域行事に参加したことが「ある」と答えた生徒は86%いる一方で、地域の人と関わる機会が「ある」と答えた生徒は32%であった（図1）。

意識調査の結果から、家族の一員である生徒が家庭生活に対して関心が低いこと、地域の人々と関わ

る機会が十分ではないことが考えられる。家族や地域の一員である中学生がよりよい生活の実現に向けて、自ら行動しようとする意欲を高める指導が求められる。

表1 家族・家庭生活への理解

質問内容	はい	いいえ
家庭の基本的な機能について知っていますか	21%	79%
家庭生活について知りたいですか	19%	81%
持続可能な社会について説明できますか	9%	91%

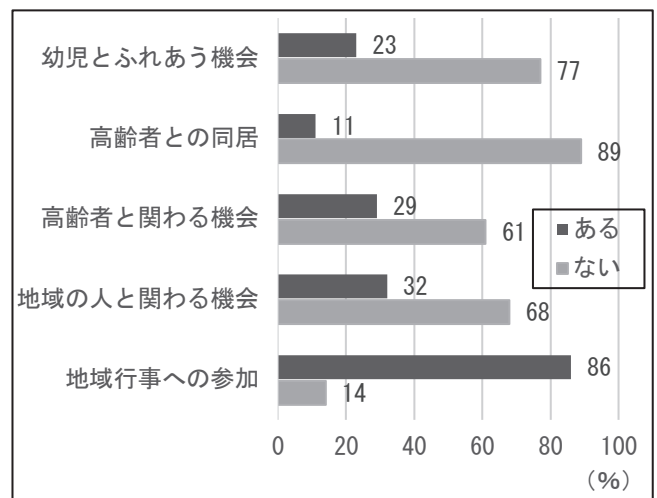


図1 地域の人々との関わり

3 目指す生徒像

- ・家族や地域の人々と協力・協働し、家庭生活の問題を見極めることができる生徒
- ・家族・家庭や地域における問題を解決するために課題を設定し、解決策を構想し解決できる生徒

4 研究仮説

持続可能な社会の構築に向けて、家族や地域の人々と協働について考え、家庭生活における問題を

見極め、課題を設定し、解決する学習活動を展開し、繰り返すことで、よりよい家庭生活を営もうとする生徒が育つであろう。

5 研究の内容

(1) 指導計画の工夫

① 3年間を見通した指導計画

第1学年	A 家族・家庭生活 (1)ガイダンス① 家族・家庭生活の基本的な機能④	B 衣食住の生活 (1)食事の役割 (2)中学生に必要な栄養を満たす食事⑤	B 衣食住の生活 (4)衣服の選択と手入れ (5)布を用いた製作⑥
第2学年	B 衣食住の生活 (2)中学生に必要な栄養を満たす食事 (3)日常食の調理と地域の食文化⑤	A 家族・家庭生活 (2)幼児の生活と家族 (3)家族・家庭や地域とのかかわり②	B 衣食住の生活 (6)住居の機能と安全な住まい方⑧
第3学年	C 消費生活・環境 (1)金銭の管理と購入 (2)消費者の権利と責任⑩	B 衣食住の生活 (7)	A 家族・家庭生活 (3)家族・家庭や地域とのかかわり④

図2 3年間を見通した指導計画

家族・家庭生活の学習を、第1学年で5時間、第2学年で12時間、第3学年で4時間の合計21時間で設定した。第1学年では、ガイダンスにおいて、小学校での既習内容を振り返り、自分の成長を知ること、家族・家庭の基本的な機能を理解できるようにした。第2学年では、幼児や高齢者との関わりについて、第1学年で理解した家族・家庭の基本的な機能を土台に学ばせることにした。第3学年においては、家族・家庭や地域との関わりを地域行事や地域活動への協働からつながりをもたせた。また、持続可能な社会の構築に向けては、SDGsの視点からも気づかせるようにした。



② ストーリー性をもった題材の設定

第1学年ではガイダンスで自分の家族・家庭生活を振り返らせた。第2学年では、幼児、高齢者について2つの題材を設定した。第3学年では3年間の学習のまとめとし、家庭生活の振り返りに加え、地域の人々との協働について深められるようにした。

家族・家庭生活の学習を4つのフェーズ分類し、それぞれの題材において題材全体の学習課題を設定することで、生徒の学びを明確にした。さらに、生徒が自らの課題を設定し、課題解決に向けて追究していく過程の中で、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫、創造できるようにした。

【第1フェーズ】 4時間+ガイダンス (1時間)

第1学年のガイダンスでは、SDGsとの関連を図り、地球で起きている問題は、家庭の中で起きている小さなことから始まっている事に気づかせ、持続可能な社会の実現につながっていることを考えさせた。SDGsの視点から自分の生活を見直し、家族・家庭生活の基本的な機能について学び、家族の一員として行動できるようにした。

【第2フェーズ】 6時間

「子供を取り巻く課題」「少子化」などの社会問題を課題として挙げ、子供が育つ環境をよりよくしていくために中学生にできること、幼児の心身の発達の学習では子供が育つ環境としての家族の役割について考えさせた。

【第3フェーズ】 6時間

今回の学習指導要領の改訂に伴って新しく加わった、「高齢者との関わり方」について、地域行事や地域活動、地域団体などの協力を得ながら中学生が地域の一員として地域の人々とともに課題意識をもちながら、主体的に話し合ったり、課題解決をしたりする活動を計画した。

【第4フェーズ】 4時間

第3学年では3年間学んできたストーリーのまとめとする。第1学年のガイダンスに戻り、個々の生徒が構築してきた家族や地域の人々と協働し、よりよい家庭生活を営むための解決策を振り返らせ、社会の一員として持続可能な社会の担い手となり、社会とつながる工夫、課題解決の手立てを考えさせた。その基盤となるのは家庭生活であり、家庭生活と地域は相互の関係で成り立っており、地域との協働の必要性を理解し、主体的に課題解決し、実践できる力を身に付けさせた。

③ 問題解決的な学習過程

各題材において、問題を見極め、課題を設定し、問題解決的な学習活動を行うようにした。題材においては、生徒の生活を振り返ることを重視し、自己の課題として取り組めるようにした。

(2) 「見方・考え方」を働かせ、質の高い深い学びを実現するための指導の工夫

① 問題を見極めるための工夫

「地域と関わるために」において、自分の家庭生活をアンケートで振り返らせることで、地域や地域の人々への関わりについて考えることができた。

地域の方をゲストティーチャーとして招いたり、インタビュー動画を映像資料として用いたりして、地域の方の思いや中学生に期待していること等に気付かせた。そして、地域と関わり協働していくためにはどのようなことが課題になるのか、生徒が自分の課題として見極められるようにさせた。

② 課題を設定し、解決するための学習活動の工夫
ア 発問の工夫

家族関係をより良い方向へ考えられるよう、発問

を工夫した。これまでの授業では「〇〇についてどのように考えますか?」「〇〇については△△です」など、知識を教える形式、考えを引き出すだけにとどまる発問が多かったが、「〇〇を学習するのはどうして?」「〇〇について何が課題か」「課題を解決するために何が必要か」「他の解決はないか」など、もっている知識を活用させ、思考や認識過程において適切な発問を行う工夫をした。

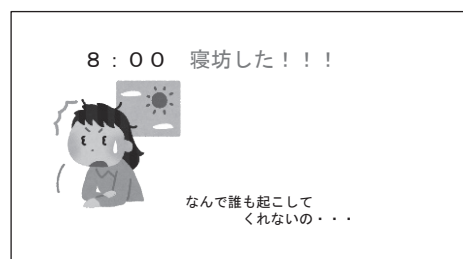
表2 家族・家庭生活に関する指導計画

各小題材で身に付ける資質・能力	生活を見つめ課題を見出す	解決方法を考える計画する	解決する	評価・改善する	
よりよい家庭生活を営むためには、どうすればよいか	第1フェーズ A(1)自分の成長と家族・家庭生活④ ○家族・家庭の基本的な機能の理解 A(3) 家族・家庭や地域との関わり⑦・⑧ ○家族の互いの立場や役割の理解 ○協力することによって家族関係をよりよくできることについての理解 ○家族と協働して家庭生活を営む必要があることへの気付き ○家族関係をよりよくする方法について考え工夫する	家族関係をよりよくするためにはどのようにすればよいか			
	1時間	2時間	3時間	4時間	
	第2フェーズ A(2) 幼児の生活と家族⑥ ○幼児の発達と生活の特徴の理解 ○子供が育つ環境としての家族の役割についての理解 ○幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方についての理解 ○幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫する	子どもが育つ環境を整えるためにはどのようにすればよいか			
	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間
第3フェーズ A(3) 家族・家庭や地域との関わり⑥ ○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることへの理解 ○高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方についての理解 ○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫する	高齢者など地域の人々と関わっていくためにはどのようにすればよいか				
1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間
第4フェーズ A(1)自分の成長と家族・家庭生活④ ○家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることへの理解 A(3) 家族・家庭や地域との関わり ○家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫する	よりよい家庭生活を営むためにはどのようにすればよいか				
1時間	2時間	3時間	4時間		

イ ICT活用 タブレット端末

家族・家庭生活の多様化のため、模擬家族の生活を想定し、プレゼンテーションソフトを活用した教材を作成した。その中から学習内容に興味・関心をもたせ、意欲的に課題を探り、解決できるようにした。また、ワークシート・資料等はタブレット端末を活用した。自己評価や取り組みの振り返り、レポート作成、提出をタブレット端末で行うことで、生徒の進捗状況や内容を一覧で確認することができた。また、説明時間を短縮することができ、生徒の主体的な学習活動を増やすことにつながった。タブレッ

ト端末等を活用し、自分の意見だけでなく、他者の意見を共有することで、自分では気が付かなかった発見や学びを得ることができた。



ウ ICT活用 外部との交流

幼児の生活の学習では、実際にふれあい体験や交流ができなくても、あらかじめ録画しておいた映像やデジタル教科書の映像を活用することで代用することができた。また、オンラインでの交流を取り入れることにより、地域の方の話を聞くことができた。いずれも、映像で視覚的に捉えることで、生徒の興味・関心を引き出し、生徒自身が問題意識を高め、課題を設定することができた。



6 研究の成果

(1) 指導計画の工夫

3年間を見通した年間指導計画を作成し、小学校家庭科の学習を踏まえて、中学校3年間の学習の見通しをもつことができるように、各学年にAの学習内容を配置し、B、Cの学習内容にもAの学習内容と関連づけ、ストーリー性をもたせた学習を計画的に取り入れたことで、学習の効果が向上した。

(2) 「見方・考え方」を働かせ質の高い学びを実現するための指導の工夫

課題をもって、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考える資質・能力を育成することができた。家族関係をよりよくするために家族の一員として何ができるか考える指導の充実を図ることで、地域の一員でもあることの理解を深めることができた。

家庭生活や社会との関わりに関する学習では、生徒のプライバシーに配慮しながら、自己のこれまでの生活を振り返るアンケート等を行い、自己の課題に向き合わせながら、どのようにしたら良いかを考え、探らせ、深める活動を繰り返した。その結果、自分の課題として捉えさせることができ、学習を進めることができた。

プリント No. _____
2021年 月 日

地域と関わるために、
2年()組()番 氏名 _____

【1】地域の高齢者の方のお話を聞いて、次の視点でまとめよう。
地域の方が、
地域の方がいと良いこと _____
問題に思っていること _____

地域の人と関わるための課題 _____

中学生に期待していること _____

【2】各席の意見から、クラス全体で今後の学習テーマを決めよう。
クラスの学習テーマ _____
クラス全体で学習テーマを決める

【3】今日の授業を振り返り、家庭生活と地域との関わりについて、
良かったことや増えたことをまとめよう。

【4】クラスの学習テーマをふまえて、自分自身が地域の人と関わって
いく時に課題になることを見つけ、「自分の学習テーマ」を決め
よう。
課題 _____

自分の学習テーマ _____
個人で学習テーマを決める

4 家族や地域のために自分ができること 具体的に書いてみよう

巨大地震が起きた時	大雨(巨大台風)が降った時	大雪が降った時
避難準備する時 自分家の の気圧・温度計がいきなり で 動いてきた。	浸水想定区域画で油 断せたい。学校の遊 歩道が水でぬかるた。	雪はあちこち積れ ているが、地域 の人を助けて。
地域の人々との かわりで、今後 自分が心がけたいこと	地域の人と関わりたい。災害時に 役に立てたい。	災害時に

7 今後の課題

3年間の年間指導計画を作成する上では、小学校家庭科の学習を踏まえ、中学校3年間の学習の見通しをもつだけでなく、世の中の動きと関連することが大きいことを理解して計画を立てる必要がある。その際、他教科との連携(カリキュラム・マネジメント)が重要となる。

地域との関わりを通して、今後も地域の一員として、自ら行動しようとする意欲を高める指導が必要である。